修士論文要旨

論文タイトル：日中おけるスタートアップ起業に関する研究
―オープンイノベーションの視点からー

学籍番号：AM20031
氏　　名：WAN WENJIE

指導教授：林　聖子　教授

【論文の構成】

はじめに
第1章　問題意識と研究について
第２章　先行研究
第３章 中国と日本の関連政策
第４章 事例研究
第５章 考察
第６章 結論
おわりに

【論文の内容】

１．研究目的

本論文における問題意識はスタートアップ企業の中日比較についての論文が少なく、ほとんど研究は米国であるが、現代社会でのスタートアップの重要性は年々急増し、しかし、日本スタートアップ企業の数は、世界に遅れをとっている等である。中日スタートアップの比較を通じ、戦略の違いを明らかにしていく。

本論文の研究目的は、日中両国のスタートアップについて，オープンイノベーションの視点から特徴を明らかにし、両国のエコシステムについても検討することである。

２．研究方法

本論文の方法はオープンイノベーションの視点から中日両国のスタートアップ企業に着目し、問題意識から先行研究を行い、政策を比較し、事例研究を行い、考察し、研究目的を明らかにする。

３.事例研究

中国の研究開発スタートアップであるDJI会社（DJIのHP）と日本の研究開発スタートアップであるフォトンテックイノベーションズ株式会社（フォトンテックイノベーションズのHP）を取り上げ、比較事例研究を行い、オープンイノベーションの視点から分析し、スタートアップの特徴を明らかにした。

４.考察

以上二つの会社を比べて、同じくスタートアップかつハイテク企業であるが、各自の強みとイノベーション駆動力が違う。DJIのオープンイノベーションは他の企業や大学と共に、より多くの消費者のニーズを満たすために行うこと。これに対し、フォトンテックイノベーションズ株式会社は現有の研究成果を事業化することを目標として、オープンイノベーションを行っている。

５．研究結果

日本経済が1990年代以降長期の停滞に陥って、全要素生産性の鈍化であり、交易条件の悪化であり、少子化と人口減少などの背景下、日本経済がさらに伸ばせるため、イノベーションが重要であることを意識し、本研究は日中スタートアップ起業を対象として、オープンイノベーションの視点から比較事例分析法を用いて研究を行った。本研究の目的はオープンイノベーションの視点から日中スタートアップ起業の異同を明らかにすることで、スタートアップ企業の将来性や両国オープンイノベーション連携に役をたつこと。

本研究は目的に基づき、先行研究にて日中スタートアップ企業の業界分布、資金調達について調べた。日本のスタートアップ企業がハイテクに集中する傾向があり、中国には民生面が重視。さらに、日中政策について調べて、比較した。

日中のスタートアップ企業から、DJI 会社とフォトンテックイノベーションズ株式会社を事例として、比較事例研究を行った。オープンイノベーションの視点から見ると、DJI は積極的に他会社と連携し、消費者のニーズを中心として開発を行った。DJI に対し、フォトンテックイノベションズ株式会社は研究成果の転化を中心とし、大学や研究所と連携、運営している。この二つの会社の比較研究により、オープンイノベーションは二つのモデルが存在すると提唱したい。一つ目は DJI が代表する消費者の意見が主導する、ニーズからアイディアを生み出して、ニーズを満たすような開発を行う「ニーズリード」モデルである。二つ目はフォトンテックイノベーションズ株式会社が代表する大学発スタットアップ企業であり、研究成果事業化を目指して応用場面を探索する「研究リード」モデルである。

この二つのモデルは各自の強みがあり、中国において大きな市場と需要に加え、日本は先進的な技術力がある。両国オープンイノベーション連携の時、本研究にて導いたモデルを参考し、中日両国のスタートアップの違いを明らかになった。

【主要参考文献】

１．DJI 株式会社のホームページ,https://www.dji.com/jp,閲覧年月日,2021 年 12 月 1 日.
２．フォトンテックイノベーションズ株式会社 HP, 「フォトンテックイノベーションズ株式会社概要」, https://www.photontech-innov.com/company.html, 閲覧年月日,2021 年 12 月 12 日.

➤ 必ず 2 頁で記述すること（1 頁は不可＝内容的に不十分）

以上